

まちどレポ

身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。
【問】企画課広報広聴係 ☎ 77・8425

背丈よりも高く積み上がる 柳河公民館でカプラ積み木体験を開催

柳河公民館は、8月18日、カプラ積み木体験を実施しました。これは、同公民館が夏休みに柳河小学校の2、3年生を対象に開催しているイベントで、児童6人が参加。同じ大きさの薄い板を何枚も積み重ねて、自由な形を作ることができるカプラ積み木。会場には2800ピースのカプラが用意され、児童たちは家やピラミッドを作ったり、協力してタワーなどを作りました。いすや脚立を使って積み上がったタワーは、2mを超す高さに。バランスを崩してタワーが崩れ落ちると、児童たちは残念な表情を見せながらも、すぐにまたカプラを積み始めていました。



一つずつ慎重にカプラを積み上げる児童たち

並べられた雑誌の中から目当てのものを選ぶ来場者



目当ての本をゲット 市立図書館雑誌リサイクルデー

市立図書館は、8月23日の三橋図書館を皮切りに、昭代分館などで雑誌リサイクルデーを開催しています。これは、2年の保存年限が過ぎた雑誌を1人10冊まで無料で提供するもの。30日は、あめんぼセンターで開催され、約185人が来場。料理や手芸、スポーツ、児童向けなどおよそ40ジャンル、約2700冊もの雑誌や本が並べられました。来場者は、「10冊選ぶのに苦労するほどいろいろな雑誌があって驚いた。また来年も来たい」と話していました。

CDを持つ緒方さん（左）と熱唱する野田さん（右）



娘への母の愛情の深さを表現 さげもんをテーマにした曲が完成

久留米市のシンガー・ソングライター野田かつひこさんが、さげもんをテーマにした曲「さげもんの詩」を完成させました。これは、市の観光大使でさげもん作家の緒方文香さんが「さげもんへ込められた愛情が感じられる曲を作ってほしい」と野田さんに依頼。野田さんは、母から娘へ受け継がれる愛情の深さを表現した曲を作りました。2人は8月25日に金子市長を表敬訪問。緒方さんから市にCD10枚が寄贈されました。緒方さんは「あちこちで流れるようになればうれしい」と話しました。

1万4000km離れた南極とオンライン授業 大和中学校で「南極教室」を開催

国立極地研究所は9月8日、南極観測隊として昭和基地で活動する堤大陸さん（26歳）の母校大和中学校で「南極教室」を行いました。これは、子どもたちに地球や宇宙に関心を持ってもらおうと隊員とゆかりのある学校で開催されているもの。衛星回線で南極と同校を結び、3年生109人が南極にいる堤さんとリアルタイムで交信しました。雪景色の中から中継に登場した堤さんは、昨年12月に昭和基地に到着したときのことを「一面茶色で本当に南極なのかと思った」と語り、当時は夏で雪はなく地面が見えていたと説明。同僚隊員と一緒に凍ったタオルやカップラーメン、雪上車などを見せながら、現地の環境や活動内容を解説しました。生徒たちは、南極のオーロラや星座、生き物の映像を見たり、南極から届けられた氷を実際に触って普段の生活とかけ離れた世界を体験しました。また、生徒からの「命の危険を感じたことは」という質問に、堤さんは、視界が真っ白になるホワイトアウトの経験談を披露。生徒たちは興味深そうに聞き入っていました。最後に堤さんは「中学生の時には南極にいていないなかった。いろんなことに興味を持って頑張してほしい」と生徒たちにエールを送りました。



【上】1万4000km離れた南極からオンラインで生徒へ語りかける南極観測隊員たち
【左】雪をかき分けて調査活動する堤さん

真剣にボールを打ち返す蒲池中学校の選手



親睦を深め技を磨き合う 第42回筑後地区中学親善卓球大会

筑後地区親善卓球大会実行委員会は、8月29日と30日に柳川市民体育館で中学親善卓球大会を開きました。21年目になるこの大会に筑後地区から42チームが参加して、団体戦と個人戦で競いました。市内からは蒲池中学校男子と大和中学校女子が出場。大会結果は、男子団体戦1部で蒲池中学校が3位に入賞。個人戦では1年生男子1部で金縄寿仁君（蒲池中）が優勝。同3位に平川旺雅君（同）、1年生女子3部2位に田尻若菜さん（大和中）が入賞しました。

煙を吸わないように口に手を当てて避難する園児たち



火遊びは絶対にしません 大和保育園で防火訓練

市幼少年婦人防火委員会は、9月1日の「防災の日」にあわせて、市内の保育園や幼稚園で「防火教室」を実施しました。これは、幼少期から防火意識を高めてもらおうと毎年行っているもの。9月4日は、大和保育園で避難訓練を実施しました。園児たちは先生の言うことをしっかりと聞いて、煙を吸わないように口に手を当てて上手に避難。火災の恐ろしさや、火遊びの危険性を学んだ園児たちは「火遊びは絶対にしません」と大きな声で約束しました。